

# COP28における経団連の活動

2023年11月30日から12月13日にかけて、アラブ首長国連邦(UAE)のドバイにおいて、国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)が開催された。

COP28では、世界全体の気候変動対策の進捗を評価する「グローバル・ストックテイク」(GST)がとりまとめられたほか、干ばつや洪水など気候変動による「損失と損害」(ロス&ダメージ)に関する基金の大枠などが合意された。

経団連は、COP28に環境委員会の幹部らで構成される代表団を派遣した。本稿では現地での活動について報告する。

## 経団連代表団派遣の趣旨

昨今の異常気象の世界的な増加などにより、気候変動問題は、いまや「地球沸騰化」とも呼ばれるように、切迫感を持った対応が求められるようになってきている。こうした中、日本は、2050年カーボンニュートラル、2030年度温室効果ガス46%削減(2013

3年度比)というチャレンジングな目標に、国際的にコミットしている。これらの目標を実現するためには、経済社会全体の変革、すなわちGX(グリーントランスフォーメーション)が不可欠である。GXは、単なる排出削減対策にとどまらず、投資主導で経済拡大を目指すわが国の成長戦略の柱でもある。経団連は、日本政府と密に連携しつつ、GXの実現に向けた取り組みを推進している。

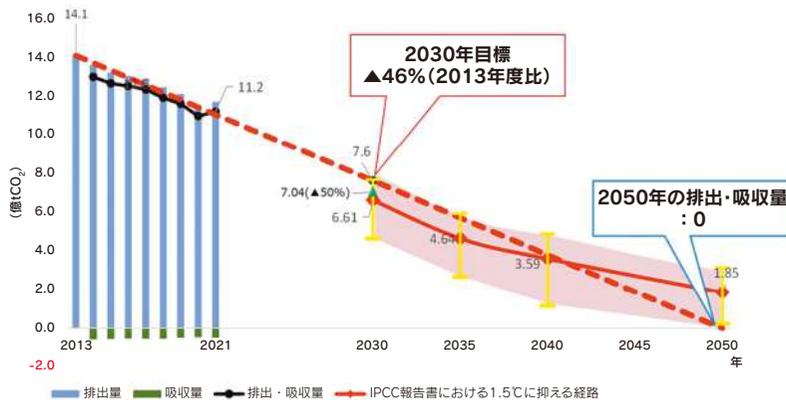
そこで今回は、日本経済界のGXに関する考え方および取り組み・実績を国際的に発信するとともに、COP28における交渉状況のフォロー、交渉のバックアップなどを目的として、代表団を派遣した。

## 経団連主催サイドイベント

12月9日午後、COP会場内に設置されたイベントスペース「ジャパン・パビリオン」において、地球産業文化研究所および日本エネルギー経済研究所とともに、「GXを通じた持続可能な成長」をテーマとするサイドイベントを開催した。イベントには各国から聴衆が詰めかけ、立ち見が出るほどの盛況となった。

冒頭、世界共通のゴールであるカーボンニュートラル実現に向けたGXの重要性を発信するとともに、経団連が推進する主体的な取

図表 2050年に向けた日本の排出削減実績



※1: 上の図の赤い帯の範囲は、2023年3月に公表されたIPCC第6次評価報告書統合報告書において示された1.5℃に抑える経路における世界全体の温室効果ガス排出削減量(%)を仮想的にわが国に割り当てたもの  
 ※2: 当該報告書では、モダルの不確実性などを加味し、1.5℃に抑える経路は幅を持って示されているため、2030年、2035年、2040年、2050年時点における排出量は黄色線で幅を持って示している。また、その代表値をつないだものを赤色の実線で示している

出所: 環境省

り組みである「カーボンニュートラル行動計画」ならびに「チャレンジ・ゼロ」の概要とこれまでの実績を紹介した。環境省の松澤裕地球環境審議官からもご挨拶いただき、日本のGXに向けた官民の具体的取り組みを効果的に発信することができた。

また、水素や再エネ、モビリティ、CCUS<sup>(注3)</sup>など、GXに不可欠となるイノベーションの専門家を国内外から招待し、同イベントの中で、グリーンマーケットの創出やクリーンエネルギーへの移行(いわゆるエネルギー・トランジション)といったGXに関する様々な



サイドイベントにおけるパネルディスカッションの様相

課題について活発な意見交換が行われた(写真上)。

### 日本政府交渉団および海外関係者との意見交換

経団連代表団は、COP会場内において、松澤地球環境審議官や経済産業省の島山陽二郎産業技術環境局長、外務省の赤堀毅地球規模課題審議官ら、日本政府交渉団の幹部と相次いで意見交換を行い、最新の交渉状況や日本政府の交渉スタンスを聴取した。あわせて経団連側からは、カーボンニュートラルの実



クラーク英国対日貿易担当特命大使(右)と懇談

現に向け、新興国・途上国を含む世界各国の排出削減努力が一層促されるよう、気候変動外交における日本のリーダーシップの発揮を働きかけた。

さらに、英国のグレッグ・クラーク対日貿易担当特命大使(写真下)のほか、USCIB(米国国際ビジネス評議会)、CBI(英国産業連盟)、BDI(ドイツ産業連盟)、CII(インド工業連盟)といった主要国の経済団体とも、二者間の会談を実施した。各国の気候変動・エネルギー政策をめぐる動向などを聴取するとともに、経団連側からは、日本のGXに関する具体的な取り組みや、日本の排出削減実績が2050年カーボンニュートラルに向けて順調に進捗していること(図表)を説明した。

今般の代表団派遣の成果も踏まえ、経団連は引き続き、世界全体のカーボンニュートラルおよびGXの実現に向けた活動を展開していく。

### 経団連環境エネルギー本部

(注1) 経団連はほぼ毎回COPに代表団を派遣し、気候変動交渉等に関する最新情報を収集している。

(注2) 2023年7月、国連のアントニオ・グテーレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と発言。

(注3) CCUS: 二酸化炭素回収・有効利用・貯留(Carbon Capture, Utilization and Storage)